**柞木田　龍善 （たらきだ・りゅうぜん）**

**１、プロフィール**

作家。中里介山主宰の「西隣村塾」出身。読売新聞記者28年中、旅行記者17年、文化部宗教記者４年。旅の本、小説、「大菩薩会」理事として介山研究等。日本文芸家協会会員。

＜生没＞

1914（大正３）年11月10日～1998（平成10）年３月21日

＜代表作＞

昭和47年３月15日に読売新聞社より『中里介山伝』を発行する。正しい介山伝ができた、と「あとがき」に記す。

＜青森との関わり＞

八戸市に生まれる。12歳の時、八戸浄土宗成田龍観の弟子となる。その後に中里介山主宰の「西隣村塾」入塾。

**２、作家解説**

大正３年11月30日、八戸市に生まれる。大正15年、八戸市浄土宗成田龍観の弟子となる。その後、陸軍の少年兵となり、昭和９年、中里介山主宰の「西隣村塾」塾生となる。昭和10年１月10日、入営。昭和11年12月９日、兵隊が終わり、再び塾生。昭和12年５月、塾を出て職業人となる。昭和14年、青森歩兵第５連隊に入営。昭和15年５月19日、軍人会館「戦友・我が家」編集部に入る。昭和17年５月、２回目の召集を受けて満州に渡る。昭和22年６月、シベリア抑留より帰還復員。

昭和22年９月、読売新聞に復職。昭和25年から41年５月まで、読売新聞の行楽・旅行欄を担当（秘境探しの名人といわれ、山旅の本10冊を著す）。昭和41年６月～44年11月30日、定年退職するまで文化部宗教記者。読売新聞記者28年間の著作は、昭和27年の『四季の行楽』（日本交通公社）、昭和40年の『全国秘境案内』（秋元書房）、『全国高原と湖の旅』（実業之日本社）、『日本の秘境』（読売新聞社）等。

昭和45年に小説『微笑仏』（木耳社）、昭和47年３月15日発行の『中里介山伝』（読売新聞社）、昭和49年６月５日発行の『秘境　歴史の旅』（新人物往来者）、昭和52年５月20日発行の『修験木喰』（佼成出版社）、昭和54年９月１日発行の『中里介山と武術』（体育とスポーツ出版社）、昭和55年７月20日発行の『修験の山々』（法蔵館）、昭和57年６月25日発行の小説『赤い満月』（叢文社）、昭和59年12月10日発行の『超古代史の謎に挑む』（風濤社）、昭和61年10月15日発行の『日本神道』（風濤社）、昭和62年10月16日発行の『大菩薩峠　作者　中里介山伝』（天心大菩薩会）、昭和63年11月16日発行の『大菩薩峠　作者　中里介山の思想』（天心大菩薩会）、『安徳天皇と日の宮幣立神宮』（新人物往来社）等の著作を発表。

日本文芸家協会会員で、「天心大菩薩会」理事。平成10年３月21日、肺炎による多臓器不全のため、山梨県竜天町のリハビリテーション病院にて死去。

**３、資料紹介**

〇『中里介山伝』

図書

1972（昭和47）年10月20日

192mm×130mm

柞木田が上京後、昭和９年に中里介山主宰の「西隣村塾」の門を叩き、昭和19年４月28日に介山が亡くなるまで、弟子の１人であった。介山の実弟中里健から、笹本寅の『中里介山』を正す意味で、介山の記録・資料を手渡されて、真実の中里介山伝を執筆。